

中国経済学史を学んで

A Study of Chinese Economics History

福光 寛

Hiroshi FUKUMITSU

謝辞 Acknowledgment

政治経済研究所ならびにご出席の皆様へ

中国はなぜ
民主主義国と
呼ばれないか
仮説①
一党独裁制は
そもそも
民主主義に反
している

- 以下はすべて私見で仮説に過ぎません。
- 民主主義を認める前提は
価値多元主義の立場に立つことだと考える。
中国は価値多元主義ではない一党独裁制。
- 価値多元主義 Value Pluralism
自分とは異なる価値観の人と共存すること
例 天皇制 原子力発電 国防 などでも
自分の価値観が上だ、優れていると考える
のは本当の意味での価値多元主義ではない
- 互いに相手の価値観を尊重し敬意を払うこ
とが民主主義の基本ではないか。

中国はなぜ
民主主義国と
呼ばれないか
仮説②
民主主義
democracy
が機能してい
ない

- 中国にも選挙はあるが選挙原則が守られていない
- 選挙原則とは 普通 平等 直接 秘密 自由 のこと
例 人民代表大会の選出方法は複数段階の間接選挙で選挙原則を満たしていない。
- 候補者選出の競争性が制限されている
立候補の自由が制限されている
- (地方政府でも) 行政首長が直接選挙で選ばれることがない

中国はなぜ
民主主義国と
呼ばれないか
仮説③
政治権力が
十分に牽制
されていない

- 権力をけん制する機構があるか？ それ機能が機能しているか。（これには効率面から批判がある）**政治的多元主義**political pluralismという。三権分立、二院制など。**中国はこれが弱い、十分でない、と見られている。**
- 中国では民主主義の内容を、複数政党の問題を含めて政治的多元主義として理解している印象がある。また、中国はこのような多元主義の弱さをむしろ、長所と主張している面がある。

権威主義と いうとらえ方

- 権威主義（威權主義） Authoritarianism

-----中国を権威主義だという人が少なくない。これは中国は民主主義ではないが、かといって独裁とか全体主義と呼ぶほどでないというニュアンスが感じられる。

確かに「法治」を目指し、党官僚の腐敗を抑える姿勢は感じられる。しかし反面、民主主義化に慎重な姿勢も続いている。

大学や教育の世界では、研究におけるテーマの選択、教育内容などに、制約が多いとされることは権威主義の表れであり、懸念材料である。

前置き

Introductory Remarks

前置き 1 ランゲの joke について

- ドイツ映画Wolfgang Becker's Good Bye Lenin! (2003) でGurken or gherkin が出てくる。キュウリの酢漬は東欧では習慣としてよく食べることが理解される。
- 計画担当者がGurken : pickled cucumber を計画目標に加えても、Langeが言うほどjokeではないかも。
It might be not a joke at all.

前置き 1 レーニン について

- 滝沢修（1906-2000）のレーニンを
見た記憶と重なる。「7月6日」劇団民
芸 1970年9月東横劇場。当時話題
だったようだ。

→ 1970年という年を反映していたの
ではと今になって感じる。

- I saw Lenin on the stage in 1970, it was
reflected the atmosphere of 1970.

前置き 2

- 中国経済学史のうち 現代経済学についてのところ。それぞれの人の運命はさまざまであった。以下は例示。
- 何廉 エールで学位 南開大学で教鞭 共産党政権となる前に米国へ。
方顯廷 エールで学位 南開大学で教鞭 文革直前にシンガポールへ。
- 張培剛(1913-2011) ハーバードで経済史で学位(1945 農業と工業化 同年の最優秀論文 経済発展論に貢献)。帰国後、武漢大学で教鞭。1952年三反運動のなかで転進せまられ以後30年間 経済学の研究教育できず。
- 陳振漢(1912-2008) ハーバードで経済史で学位(1946 米国の綿紡績工業について) 帰国後 南開大学。1957年六教授意見書の「主犯」として以降22年間弾圧される。1979名誉回復。陳振漢については調べる余地大。意見書のこと、新中国になる前の提案など。

前置き 2

- 馬寅初(1882-1982)は、毛沢東により北京大
学校長として重用されたのですが、人口論
で毛沢東と対立します。以下は批判攻撃の
渦中での彼の反論中の最後の言葉。
- 我雖年近八十，明知寡不敵衆（語義 敵は
あまりに多く味方はあまりに少ないことは
はっきりしている、負け戦ははっきりして
いるが），自當單身匹馬，出來應戰，直至
戰死爲止。（馬寅初 1959年10月）

前置き 2
注目中している二人の学者だが微妙に中国社会的扱いが違う。

董時進（トン・スウチン
1900-1984）

- 1949年 毛沢東に土地改革で公開意見書提出で有名
提出後 台湾を経て米国へ
- この意見書は中国のネット上に複数が健在。
- 再評価する論文など多数出始めている（再評価は可能になった印象）。

陳振漢(チェン・ツエンハン
1912-2008)

- 1957年六教授意見書を提出
1979年に名誉回復。
- 現在もこの意見書入手はハードル高い（一部の書籍から入手可能）
- 全面再評価にはなお規制が多い（ように見える）。

はじめに Introduction

マルクス主義の受容について The acceptance of Marxism in China

受容と発展

- 李大釗 我的馬克思主義觀 1919/05 1919/11 河上肇訳参照を明言。
- 河上肇だけでなく資本論第3巻英語版参照は明らか。
- 李達は1913-18まで滞日後、マルクス主義文献を読むことを目的に再来日、1920年夏まで2年近く滞在して「共産党宣言」「経済学批判序説」「資本論1巻」「国家と革命」などを読んだとされる。日本語訳のほか他の言語版を見た可能性も高い（ここは今後詰める予定で今は推定）。

李達が帰国後 執筆した論文1921/05。その直後に同じ雑誌に陳独秀が講演記録として発表した論文1921/07。この2本の間には、内容的な類似性がみられる。李達が理解したことが陳独秀に継承された可能性は高い。その後、陳独秀はより洗練された形で発表している1923/05。

- これは、中国で思想が独自に発展したことを示している。中国のマルクス主義が、河上肇の翻訳の翻案に過ぎないというのは間違っている。

1. 四項基本原則と民主化

1. Deng Xiaoping and Democratization

2021年現在も生きている四項基本原則と民主化

4つの基本原則の堅持（鄧小平1979/03）

社会主義思想

無産階級独裁（専制）

共産党の指導（領導）

マルクス＝レーニン主義と毛沢東思想

この原則はなお現行憲法序言に生きている。

西欧型民主主義 を採用できない 理由

鄧小平の議論をまとめると

- 1) 我々の効率の高いシステムを維持するべきである。
- 2) 国家の保持には安定保持が必要である。
- 3) 意見の統一が無ければ四分五裂に陥るだけである。

効率の高さは決定から実行（執行）までのSpeedを言っている。この点は中国が政治的多元主義でないことと関係がある。そのあとは循環論になっている。国家の安全保障の観点から異論や反論を許さないと言っているようにも読める。

circular logic, national security

2. 民主集中制をどう考えるか

2. Democratic Centralism

鄧小平報告

・1962/02/06

三不主義

- 民主集中制 鄧小平報告は分散主義批判に力点がある。
- この報告が行われた時点で民主原則の反する多くの問題があった。三不主義が持続しない懸念があったことを鄧小平は指摘している。

三不 不抓辮子，不戴帽子，不打棍

抓辮子：問題があるとして攻撃する

戴帽子：罪名をつける

打棍：悪人としてやっつける

事実は反右派闘争でも「文化大革命」でも三不主義などは実際には存在せず、勇気をもって発言した人が断罪された。

劉少奇報告

1962/01/27
三觀不講
五不怕

- 三觀不講は周囲の様子を見て話さないこと。劉少奇は党内は三觀不講に陥っているとして五不怕の精神で实事求是することを求めたとされる（非書面報告部分）。問題は五不怕をもたないと本音を発言できないという緊張した状況ではないか（福光）。
- “沒有勇氣，就不敢實事求是。”“不敢說老實話。”“毛澤東同志以前說過：爲了堅持真理，爲了實事求是，爲了說老實話。應該有“五不怕””《劉少奇選集下卷》438，439

毛澤東

1957/06/13

五不怕

- 人民日報や新華社で仕事をするようになった吳冷西に対して、毛沢東は、最悪の状況では五不怕の精神を備える必要があり、この精神さえあれば実事求是を行って、真理を堅持できると訓示した。
- 一不怕撒職
- 二不怕開除黨籍
- 三不怕老婆離婚
- 四不怕坐牢
- 五不怕殺頭

民主集中制の問題の所在 (私見です)

- 異なる意見を認めず、意見を統一しようとすること
 - 1959/07/24 “現在有顧慮の人還是不少的。”“緊張狀態的確是存在的，養成民主風氣很重要。這裏都是負責同志，下面更嚴重些。”張聞天在廬山會議。
 - 1979/04/16 “不但要“五不怕”，最要緊的還有，要被批判者以說話的機會。”孫冶方在無錫會議。
- 派閥分派を禁止すること

3. 顧准による民主集中制批判

3. Gu Zhun's Critic of Democratic Centralism

顧准の評価

顧准について日本語の論文には及川淳子のものや王前のもの、そして私のものなどがある。

評価については、たとえば、ギリシャローマ史の部分、議会制度史の部分など、明治以来の日本の研究との比較で述べて、学問的に問題に値しないなどと評価することも可能。

中国語論文でも学問的水準をけなしているものが散見される。

しかし、文革が収束前の北京にあって、たった一人で黙々と行われた知的営為に肅然として読むべきというのが私見。

顧准の経済学関係の読了範囲は、シュンペーターやジョーン・ロビンソンにまで及んでおり広く深い。

搾取の議論から疎外論に移行すべきことや、ウェーバー（未読に終わる）にも言及しており、1970年代の日本の議論と完全にシンクロしていることに驚嘆する。

顧准の評価(2) 史官文化批判

- 経済学史での評価の最大の問題は、彼が市場化の議論に先鞭をつけた論文を書いたという所だけの評価して、1990年代以降に公表された（一部は1980年代に公表）遺稿について論評しないという態度だと思う。
- そこには民主集中制批判、間接民主主義の肯定、資本主義に対する肯定的理解、中国の学問が時の王朝を肯定する「史官」文化にあることへの批判 などがある。
- 顧准の1990年代以降明らかになったこうした側面を、言論が自由な私たちまでが、彼を評価するときに無視するのはおかしいのではないか、と考える。

4. 顧准の民主集中制批判は孤立したものではない

4. Gu Zhun is not alone

《顧准追思錄》
中央編輯出版社
2015
寄稿者のなかで
共感を語っている人々

- 羅銀勝(1962-) 作家 顧准傳の著者
- 吳遠鵬(1974-) 研究者 「顧准和李贄」ほか
- 吳冠軍(1976-) 華東師範大学政治学系教授
- 馬濤(非開示) 復旦大学经济学院教授 經濟思想史
- 周其仁(1950-) 北京大学中国經濟研究中心教授
- 錢李群(1939-) 北京大学資探教授
- 俞可平(1959-) 中共中央編譯局副局長
- 高梁(1948-) 顧准之子 中信的《經濟導刊》總編輯
- 張曙光(1939-) 中国社会科学院經濟研究所研究員
- 周瑞金(1939-) 著名政論家
- 吳敬璉(1930-) 中国人民協商会議全国委員会常務委員
- 王蒙(1934-) 著名作家
- 李慎之(1923-2003) 中国自由主義思想的代表人物
- 李銳(1917-) 中共党史專家
- 柴靜(1976-) 著名記者 《看見》《穹頂之下》
- 朱學勤(1952-) 上海大学歴史系教授
- 沙葉新(1939-) 著名劇作家
- 陳瑞銘(不明) 中国社会科学院經濟研究所研究員
- 越人偉(1933-) 著名經濟学家
- 王元化(1920-2008) 著名文芸理論家

趙紫陽 と廖季立

- 趙紫陽(チャオ・ツーヤン1919-2005 開明的地主の家庭に育ち革命に参加 頭角を現す)そして廖季立(リアオ・チイリイ1915-1993 1936 復旦大学新聞系卒。1940から一貫して経済工作に従事)の共感は注目している。→ 顧准の考え方(革命後直ちに民主化)が実は中国社会で存在している考え方であることを証明している。
- 民主集中制は独裁につながるだけ。
- 革命後 民主化、商品経済化を進め生産力を高めるべきだった。
- 資本主義は自己調節力がある理想的制度。

5.未熟な資本主義、土地改革への反省

5. Reconsideration of Immature Capitalism and Land Reform

未熟な 資本主義とは 未熟な 民主主義 ではないか

- 平和な資本主義を経ることで、民主主義の伝統が育つ。
- その意味はどこにあるのか？
- 法についての規範意識 人権 商業道徳 企業については会計制度 統計制度の重要性 これらが育つには 資本主義の時間が必要。→ この認識を 劉少奇や孫冶方 などに見出すことができる。
- 長い長い時間が必要 単に生産力だけではない

土地改革への 反省

- 杜潤生（ドウ・ルンシェン）は土地改革の進め方に間違いがあったと反省した。そのことが農民の土地利用権が安易に奪われる近年の状況を生み出すに至ったと反省した。
- しかし近年、共産党の土地改革に正面から異論を示し、土地改革停止を求めた董時進（トン・スウチン）が広く読まれている。これはそもそも土地改革そのものに根本的な間違いがあったことを中国社会が認識を始めていることを示唆するものかもしれない。しかし200万を超える地主階級の人々の命は帰ってこない。

6. 劉少奇の新民主主義論、天津講話

6. Liu Shaoqi Couldn't Support Capitalism Actively

劉少奇の 資本主義肯定 の消極性

- 5で述べたような認識をおそらく持ちながら、しかし実際の発言において劉少奇は、新民主主義論や天津講話で、資本主義を消極的にしか、肯定できなかった。
- 社会主義化を進めることは、小生産者の共産党への支持を失わせる、農民との同盟が破壊される、などの理由付け。あるいは、労働者の失業を減らすなどの理由付け。これらは資本主義肯定のより積極的的局面を語っていない。
- この消極性が何を意味するかを考えてみたい。

7. 鄧子恢の四大自由論

7. Private Property Rights and Deng Zihui

私有財産権を 明確に主張し た鄧子恢

- 劉少奇と比較して肯定的な資本主義論を展開した鄧子恢
- 彼は、新民主主義を進めるのであれば、当然、私有財産権やその売買、雇用、お金と土地の貸借の自由がある（そこを明確にしなければ人々は動かない）と考え、四大自由論を主張して毛沢東に非難されても退かなかったのではないか。
- この四大自由論を、毛沢東は激しく非難した。毛沢東の新民主主義論が、私有財産権について曖昧である点に、鄧子恢は批判的だったと私は見ている。

（実は1940年代 私有財産権を明確にした中国経済改革論が、つまり社会主義に移行しない改革論が多数あったことと四大自由論は関係があると考えている。つまり鄧子恢も実は中国社会全体の中では孤立していないのではないか。→ 董時進, 陳振漢を想起せよ。）

おわりに

Concluding Remarks

陳独秀と胡適

Chen Duxiu and Hu Shi

陳独秀 の最後の言葉

- 胡適は旧友陳独秀の最後の書簡などを読み、民主主義への理解という点で陳独秀に深く共感した。とくに反対党の容認を掲げる点は、自由主義者胡適の年来の主張と重なった。
- しかし陳独秀の言葉は、基本は、同志に向けてのものである。当時、彼の書いた他のものを見ると、彼は死の直前まで社会主義者であった。その彼が、死の直前に考えたことは、近代民主制は科学、社会主義と並ぶ人類社会三大発明の一つ。その内容は階級を問わず一つで、具体的には、集会、結社、言論、罷業の自由。そしてとくに重要なのは反党党派の自由。これらが無ければ議会とソビエトは一文にも価しない（我的根本意見）。

ソビエトという言葉からもこの言葉は、社会主義を論じた言葉とみるべき。この陳独秀の最後の言葉に共感を示してこの報告を終えたい。

- ご清聴に感謝します。ありがとうございました。